

病気の受け入れや理解が地域に浸透するには時間がかかるかもしれませんが、このシミュレーションはすぐにでも対応可能である内容だと思っています。

このようにエイズ患者が地域で暮らすにはいくつかクリアしなければいけない課題がありますが、病院だけで考えるのではなく、地域の包括や介護保険事業所を味方につければいくらかでも対応できることが増えると思います。

熱海地域包括支援センター 飛田晃成

～エイズ街頭キャンペーンに参加して～

『12月1日の世界エイズデー』に先駆け、平成28年11月18日(木)14時より、会津若松市アピタ前においてエイズ街頭キャンペーンが行われ、会津支部より2名の会員が参加しました。

世界エイズデーとは、WHO(世界保健機関)が1988年に世界的レベルでのエイズ蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として制定され、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

例年同様、会津保健福祉事務所の方・市役所の方・ボランティアの方がそれぞれ各入口に立ち、啓発資材(エイズについて分かりやすく書かれた資料の挟まれたティッシュ)を配りました。平日の日中ということもあり、10代20代の方は少なく、子供連れや高齢者の方が多く、ほとんどの方が資料を受け取ってくれました。若いお父さん・お母さんは中の資料にも目を通している様子が伺えました。この啓発活動を通して、自分自身としてもエイズについて考えるきっかけとなったように感じました。

会津中央病院 廣瀬千里

～浜方部での取り組みのご紹介～

昨年12月2日(金)いわき市総合保健福祉センターにて、いわき市保健所主催の世界エイズデー講演会が開催されました。講師の特定非営利活動法人 SHIP 星野慎二氏からは、「性の多様性について考える～こどもの人生を変える言葉があります～」というテーマで、団体の歩み・支援経験を踏まえたお話をいただきました。また、講演では、教育現場におけるLGBT(性的少数者を指す言葉)と教育者の現状と課題について触れ、「ポジティブな環境づくり」と「教育者とコミュニティとの密な連携」が求められていることを学ぶことができました。

1月8日(日)小名浜地区成人式会場(パレスいわや)にて、いわき市保健所主催の世界エイズデー街頭キャンペーンが行われました。いわき市保健所からは新家所長を含む4名のスタッフが、福島県医療ソーシャルワーカー協会浜方部からは6名が参加しました。今年はいわき市内の新成人を対象とし、啓発用グッズ(リーフレット・スマホホルダー)の配布と、保健所で行われる無料検査についての情報提供を行いました。これまで、いわき市保健所では高校生を対象とした街



頭キャンペーンを続けてきましたが、新成人からは高校生とは異なる反応や関心があることがわかり、今後の啓発活動に活かすことができる大変貴重な体験となりました。

福島労災病院 千葉和義